

平成25年度 天王寺区区政会議

(天王寺区区政有識者会議、天王寺区区政戦略会議 合同会議)

日 時：平成25年7月30日(木)

午後7時～午後9時

場 所：天王寺区役所 3階 講堂

出席者

(区政会議委員)

生駒委員・出水委員・岡田委員・河村委員・神崎委員・栗谷(信之)委員
栗谷(良子)委員・越村委員・小西委員・小林委員・酒井委員・渋谷委員
田中(創三郎)委員・田中(英俊)委員・田淵委員・出村委員・中野委員
西本委員・野口委員・原田(久仁彦)委員・原田(恵子)委員
飛田委員・三浦委員・南委員 出席24名/定数35名

(市会議員)

足高議員・福島議員

(天王寺区役所)

水谷区長・朝川副区長・池田企画総務課長・櫻井事業戦略担当課長
樋上PDCA担当課長・小川市民協働課長・和田危機管理課長
河野未来人材育成担当課長・寺井保健福祉課長・長谷保健・生活支援担当課長
条川区民の声集約担当課長代理・森シティ・プロモーション担当課長代理
田中福祉担当課長代理・市原子育て支援担当課長代理

議題

- (1) 議長・副議長の選任について
- (2) 平成24年度天王寺区運営方針の実績・評価について

(3) 区政戦略会議からの報告について

会議次第

- 1 開会
- 2 区長あいさつ
- 3 委員紹介

○樋上P D C A担当課長

皆さん、こんばんは。それでは定刻の時刻がまいりましたので、ただいまより平成25年度第1回天王寺区区制会議を開催させていただきます。

私は、天王寺区役所P D C A担当課長の樋上でございます。どうぞよろしくお願いたします。座って進行させていただきます。失礼します。

初めに、本日の配付資料について、ご確認をお願いいたします。ちょっと資料が多くて申しわけないんですけども、5種類のホッチキスどめをした資料がございます。まず一つ目が、平成25年度第1回天王寺区区政会議次第と書いたこの資料、次第です。もう一つが、色上質で「あなたの家の家具は固定されていますか」という資料、これが二つ目。あと、A3とかが入った分ですけども、参考資料として、参考資料1と書いてある分、これは区政会議の条例とか書いた資料です。それと、参考資料2というもので、ちょっと長くてA3とかが入って申しわけないんですけども、天王寺区運営方針自己評価シートと書いている分。それとあと、参考資料3、天王寺区の将来ビジョンと書いてある分です。この資料がアろうかと思ひます。それと、あと本日の配席図、A4、1枚もので配席図。あと、ピンクの天王寺区長区政報告会を開催しますというこの資料がアろうかと思ひます。ちょっといっぱいあつて申しわけないんですけども、本日は一番初めに紹介しました、この次第の資料と、あと「あなた

の家の家具は固定されていますか」というこのチラシ（が表紙の資料）、この二つがメインということで、ご確認いただけたら、この二つに基づいて進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

資料漏れとかございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、先ほど言いました次第に沿って、進めさせていただきます。

次第の2番目、区長挨拶ということで、水谷区長よりご挨拶申し上げます。よろしく願いします。

○水谷区長

天王寺区長の水谷でございます。今日も皆さん、遅い時間にこれだけ多数お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。それから、ご出席いただきました足高先生には、何かとお忙しいにもかかわらず、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。

今年度第1回目のこの区政会議合同会議、有識者会議の方々も、戦略会議の方々もここに一堂に会して、初めて行われる会議ということで、皆さん本当にご協力いただきまして、いつもありがとうございます。

今年度、私も区長就任1周年ということもございまして、この8月1日で1周年ということになるんですけれども、この1年間を振り返りましたら、本当に今日集まっておられる委員の方々を初め、また先生も初め、本当に多くの方々にご指導ご鞭撻を賜って、それで何とかやってこられた1年だったなというふうに思います。改めて、この場をおかりしまして、御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

この1年に私が強く重要性を認識させられたことは、やはりこの区政運営をするに当たっては民主主義と、この民主主義、言い古された言葉に響くかもしれませんが、この4文字をやはり念頭に置いて、物事を進めなくてはならないということでございます。今日、またこの24年度から私が就任しまして実施した、施策・事業に

についてもご説明させていただきますけれども、本当に区民の方々からさまざまなご意見をいただく中で、それぞれの施策が形づくられていったものというふうに思っております。

例えば去年は、天王寺区のほうで防災計画のほうもつくらせていただきました。本当に区役所にとってもこれは、今までに例のない本当に初めての事業でしたので、いろいろ大変なこともありましたけれども、本当に町会の方ですとか社会福祉協議会とか、さまざまな団体の方からいろいろ、こういうふうにしたらより地域のニーズに即した防災計画になるよというご意見をいただきました。それも反映して、防災計画を編むことができたことを御礼申し上げたいと思います。

それから、今日のこの資料のほうにもまとめさせていただいておりますけれども、「あなたの声をつなげ隊」という取組を去年の8月からスタートさせていただいております。これはどういうものかと申しますと、職員20人ほどのチームで、天王寺区内におられるさまざまな方にアプローチして行って、一対一でお話をして、その中で区政に対するご意見・感想をいただいていくという取組です。具体的には、例えば保育所の送り迎えに来られた親御さんとお話させていただいたりとか、天王寺区の公園に赤ちゃんを公園デビューさせられたお母さんからご意見をいただいたり、あるいは区民センターのところにあります老人福祉センターのところに来られた、囲碁や将棋といったレクリエーションを楽しまれるご高齢の方からご意見をいただいたりと、本当に幅広い方々からご意見をいただきました。そのいただいたご意見については、今日お配りしております資料のほうにも列記しております。それぞれについて今年度予算に反映したものということを示させていただいております。例えば一例を挙げますと、やはり治安を懸念される方が非常に、お話をいただく中で多かったです。それを受けまして、防犯カメラを増設しようということで、今までは地域への補助という形でカメラの設置をやっていたところを、設置も含めて100%の費用負担を区役所がやることで、増設をより加速していこうという事業を今年度始めさせていただ

いております。

本当にこの1年振り返りますと、さまざまなご意見を皆様からいただいて、それをもとに区政運営をさせていただくこの1年だったなというふうに思います。その細かな内容については、このあと職員のほうから説明がございますので、また皆さんにいろいろ見ていただいて、厳しい観点でチェックいただけたらなというふうに思っております。

それから、今日は後半のセクションで、区政戦略会議のほうからの提案ということで報告事項もございます。区政戦略会議は、公募によって委員さんが選ばれたということもあって、月1回のペースでどうしても会議をしたいんだということで、本当に全体がまとまりましたので、会議をこれまで開いてきました。その中で教育とか、例えば観光といった分野で、本当に委員さんご自身でいろいろ政策を考えて、その内容をさらに詰めて詰めて、我々のほうに提案してくださいました。

ちょっと、この戦略会議と有識者会議の説明方につきましては、今年度議会のほうでこの区政会議の位置づけが条例化されたということも受けまして、もう一回ちょっと改めて考え直そうというふうに私どもも思いを持っております。有識者会議の方々ともいろいろと意見交換をさせていただいたんですけども、やはり戦略会議はもう全員の方がこの月1回で会議をやりたいということで会議が進んできましたけれども、有識者会議の方にもぜひこの戦略会議は日ごろ、どういう議論をしているかということをご説明すると、また有識者会議の方々からもこの合同会議以外の機会に意見を伺う機会を設けたいという思いから、ちょっと任意参加による懇話会みたいなものを今後は設けていきたいと思っております。例えばですけども、月1回ちょっと区長応接室なり会議室なりに集まっていただいて、これは仕事とか家庭の事情に応じてご参加を判断していただけたらと思うんですけども、区役所のほうにお越しいただいて、私のほうから戦略会議ではこういう議論がなされていますということをご説明します。それについてまたコメントをいただいて、それプラス、また自由に区の防災とか防犯

とか、思うところについてざっくばらんにご意見を伺えたらなと思っておりますので、これもちょっと中野委員にもお話をさせていただきましたけれども、ほかの委員にもぜひ、ご関心があればぜひ参加いただけたらなというふうに思っております。

長々となりましたけれども、本日も9時まで会議が続きます。長丁場ですけれども、私も一生懸命、皆さんとお話させていただきたいと思いますので、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

どうもありがとうございます。

○樋上P D C A担当課長

それでは次に、次第の3番目、委員紹介に移りますが、本日は議題で多くの時間をとりたいと、質疑応答でいろいろと時間をとりたいと思いますので、個々のご紹介は割愛させていただきたいと考えております。まことに恐縮ですけれども、次第を1枚めくっていただきまして、ちょうど資料1ということで、委員名簿で委員の方のご確認をお願いいたします。それと、本日の委員の方の出席につきましては、別に配付しております配席図のとおりとなっております。まだちょっと来られていない方がおられますけれども、あとご欠席の方については、残念ながら所用により欠席という旨のご連絡を受けております。

また、本日はお忙しいにもかかわらず、足高議員にはご出席いただいております。ありがとうございます。議題の最後にまた、ご助言・ご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

また区役所からは、今日私の後方になりますけれども、課長級、課長代理級の職員が出席させていただいております。区役所からの説明とか、また委員の皆様方からのご意見の内容によりましては、ご発言させていただきますので、よろしく願いいたします。

あと、机に小さなマイクがございます。これは集音用のマイクでございますので、ご発言用のマイクではございません。ご発言いただく場合には、挙手をいただきまして、

担当者がマイクをお持ちいたしますので、それまでお待ちいただけますよう、よろしくお願ひします。なお、傍聴の方もおられますので、ご発言の際はマイクが通るようにお願ひを申し上げます。

それでは、ここから次第のほうの4番目の議題のほうに移らせていただきます。まず(1)議長・副議長の選任でございます。本年6月1日施行の条例第7条では「区政会議の委員はその互選により議長及び副議長を選任するものとする。」と記載されております。そこで、条例施行後の初めての区政会議となりますので、改めて議長・副議長を選任する必要がございますので、本日の議題とさせていただきます。なお、議長・副議長の選任でございますが、事務局のほうで事前に人選について少しお聞きもしておりましたところ、区政有識者会議より中野明男様、区政戦略会議より田中英俊様、お二人を議長にという声をいただいております。また副議長につきましては、有識者会議より小西丕様、川上亀雄様、戦略会議より出水季治様と栗谷信之様とのお声をいただいておりますが、それでご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(拍手)

○樋上P D C A担当課長

ありがとうございます。それでは中野様、田中様、議長席のほうへお移りいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

それでは、ここからの議事の進行を、議長にお願ひいたします。よろしくお願ひいたします。

○中野議長

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介にあずかりました、地域振興会の中野でございます。座らせていただきます。

ただいま、区政会議の議長に選任いただきました中野でございます。この会議が、天王寺区のまちを、ますますいいまちにさせていただくために有意義なものになります

よう、皆様より多くのご意見をいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○田中議長

田中でございます。有意義な会議になりますよう、皆様方のご協力をお願いいたします。活発なご発言、お願いしたいと思えます。よろしくお願いたします。

○中野議長

それでは、議題（２）の平成２４年度天王寺区運営方針の実績・評価につきまして、区役所から説明をお願いいたします。どうぞよろしくお願いたします。

○樋上PDCA担当課長

それでは引き続きまして、天王寺区役所の樋上でございます。

それでは資料２の、先ほどの名簿の横になるんですけれども、資料２についてごらんいただきますよう、よろしくお願いたします。この資料２ですけれども、この資料は参考資料としてお渡ししております２の、天王寺区の２４年度の運営方針自己評価シートの中の、様式５というかなり細かいですけれども、その部分を簡潔にまとめさせていただいた資料でございます。また、参考資料の２の一番初めの様式１というのは、全体の２４年度の評価ということで、ごらんいただけたらと思えます。本日は、先ほど申しましたように、この資料の２に基づいて説明をしていきたいと思っております。資料２につきましては、２ページから１０ページにかけて、２４年度の天王寺区の運営方針であります、経営課題１の「災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちづくり」から、経営課題５の「区民の声集約プロセスの強化」まで、平成２４年度の天王寺区役所の主な取組内容の実績とか評価をお示ししています。私からはこの資料の見方というか、説明させていただいて、その中でも２５年度に向けて取組を強化している、運営方針や予算に反映しているものにつきましては、後ろにいます担当課長もしくは課長代理のほうからご説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

区役所のほうからは本当にポイントといいますか、この資料の見方を説明させていただいて、あとは先ほど「あなたの家の家具は固定されていますか」という（表紙の資料）、こちらのほうでまた説明をさせていただきます。

それでは、資料2についてご説明をいたします。先ほど言いましたように、私からはこの資料を、ちょっとこれも文字がいっぱいあってわかりにくいと思うんですけども、どういうふうに見ていったらいいかということで説明をさせていただきます。資料2、P2なんですけれども、見てください。まず、経営課題1「災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちづくり」と書いております。昨年度、1のその中の各項目の今後の方向性とありますように、1の1から1の7まで、7つの項目について区としては大きく取り組んでまいりました。最終的に区役所としては、1の5につきましては、今後も継続して推進、それ以外については具体的に取組を見直して、また引き続き強化をしながらというか、取り組んでおります。そういうまず大きな方向性を書かせていただいて、その次に具体的に、その次の1の1から順番にそれぞれ、細かく1の1、1の2がどうだったかというのを書かせていただいたのが次の資料、次の段になります。まず、めざす成果の達成状況とか具体的取組の実施状況と書いていますけれども、この1の1のみ少し説明させていただいて、1の2以降につきましては省略をさせていただきますけれども、1の1について説明をいたします。

まず、すみませんが1の1、二つ目の囲み、ごらんいただけますでしょうか。「具体的取組の実施状況（主なもの）」と書いてあります。これですけれども、どういうふうに見るかといいますと、具体的取組の実施状況ということで、主なもの、もちろんこれだけじゃないんですけれども、区役所としましては区防災計画の策定、収容避難所の新規指定、収容避難所への備蓄物資の配置と、こういう取組をしてきました。それで区防災計画の策定では、この括弧にありますように、策定というのを目標にしておりまして、実際実施はどうだったかといいますと、策定をしたということで策定ということで書かせていただいています。収容避難所の新規指定につきましても、目

標としていましたのは2カ所以上を新規に指定しようと考えておりましたけれども、おかげさまで4カ所を指定することができたというふうに、こういうふうに見てください。備蓄物資の配置につきましても、6カ所を目標としておりましたけれども、これも実施状況は6カ所というふうに、そういうふうになっております。こういうふうに見ていただけたらと思っています。

その一つ上に戻って、めざす成果の達成状況ということで、今申し上げました取組を通してめざす成果の一つとしましては、区役所で防災計画が策定されていることを知っている区民の割合、これをふやしていくということをめざす成果としております。目標としましては、まだ先ですけれども、26年度までに80%の人が知っているというようなことの割合をめざすということになっておるんですけれども、24年度の段階では38.9%であったというふうに、こういうふうに見てください。次にもう一つのチョボですけれども、収容避難所の場所を知っている区民の割合、これも平成28年度までに70%を目標にしておるといふところですが、これにつきましては24年度の段階で77.9%の方が知っているというふうに回答をいただいています。こういうふうに資料というのは、順番に1の1からずっと、ほかもそうですけれども、こういうふうにつくっております。

そして、今申し上げました、めざす成果の達成状況、具体的取組の実施状況を踏まえ、今後の方向性の概要をその下の矢印、ちょっと長くなっていますが、長い矢印のほうに記載をしております。これが今度の方向性として、区役所としてはこういう評価ということで、一つ読ませていただきますと「策定した区防災計画の概要版を作成し広く区民に周知するなど、区民一人一人の災害対策リテラシーの向上を支援し、区民の自助力の強化を図っていきます」と。もう一つの方向性として「収容避難所の新規指定により収容人数人員の不足が解消され、量的な充足を一定達成したことから、女性のための避難スペースの確保、福祉避難所の拡大、備蓄物資の充実といった、質的充実に向けた取組を推進します」と、こういうふうにしております。こ

のように、今、1の1について説明いたしましたけれども、1の2以降は省略させていただきますが、このようにずっと順番に10ページまでごらんいただけたらと思っております。

次に1の2、これは災害時における自助共助の取組の促進ですけれども、これについては今、言ったような見方で見ていただきたいんですけれども、矢印の下のほうにあります、今年度につきましては家具固定ワークショップというのを見直して、今年度、もうご存じの方もおられるかわかりませんが、家具転倒防止器具取付事業というものを、昨年の取組を見直して今年度の取組として実施しております。ここでこの事業につきましては、危機管理課の和田課長よりご説明をお願いいたします。

なお、別添のもう一つの先ほどのチラシ、黄色のチラシのほうをご参照いただけたらと思いますので、よろしく申し上げます。それでは和田課長、よろしく申し上げます。

○和田危機管理課長

危機管理課長の和田と申します。座らせていただきます。

今、説明がありましたように、お手元の黄色の別添の用紙になっているんですけれども、平成25年度天王寺区家具転倒防止器具取付事業ということで、今年6月から事業を行っています。これにつきまして先ほど説明がありましたように、平成20年度から家具固定のワークショップを5年間で延べ670人の方に受けてもらいました。その中でご意見がありましたのが高齢の世帯で、高いところの家具が固定できないとか、自分自身で固定できない方がかなりおられましたので、25年度の予算で家具を固定するという事業を今年度から行っています。裏側を見ていただいたら、事業内容ということで、住居の中の家具や冷蔵庫が地震で倒れないように転倒防止器具、一番下に写真があるんですけれども、L字金具、ボール式、チェーン式、ベルト式といった器具をとりつけるという作業を行います。対象世帯につきましては、65歳以上のひとり暮らしの方か、もしくは65歳以上の方のみの高齢者の世帯か、もしくは

身体障害者手帳を持っている世帯、約400世帯に対して家具取り付けの工事を行います。取り付けの際の工費については、費用は全額公費負担、大阪市が負担しますが、取り付け器具につきましては、非課税の世帯以外は有料ということになっております。今現在、400世帯募集しているんですけども、6月から募集を開始して、40数件の申し込みになっていきますので、7月以降、町会の案内板等でも周知をお願いしています。これにつきましては、もっと今からどんどんふえていくとは思いますが、委員の皆様もこれを契機に該当する方がいましたら、口頭で宣伝のほうをよろしくをお願いします。

家具固定につきましては、以上でございます。

○樋上P D C A担当課長

そうしましたら続けさせていただきます。

次のページ、3ページですけども、ここでは1の3では防犯対策の推進、1の4では放置自転車対策などを書かせていただいています。1の5につきましては、都市基盤整備施設の維持管理、次のページですけども1の6では、子育て支援活動の促進、1の7で高齢者の引きこもりや虐待の防止、見守り体制の構築ということで書かせていただいています。この項目にかかわって、今年度、独居高齢者見守りサポーター事業という事業に取り組んでおります。この事業につきまして、次に保健福祉課の寺井課長よりご説明をお願いいたします。チラシの2枚目のグリーンのチラシをご覧ください。よろしくをお願いします。

○寺井保健福祉課長

保健福祉課長の寺井と申します。よろしくをお願いいたします。座らせていただきます。

天王寺区では、65歳以上の高齢者の約4割がひとり暮らしという状況がございます。また近年、高層マンションの建設が相次ぐとともに、天王寺区内には医療設備も整っているということで、天王寺区内のほうに転入される高齢者の方もふえておりま

す。そのような方は地域とのつながりも薄くなりがちで、地域のほうで取り組んでいただいております食事サービスや、ふれあい喫茶といった行事にも参加率が低いという中で、一方、各種の福祉介護サービスも利用されておられない、あるいは利用方法がよくわからないのでサービスを受けないでいるといったような孤立した高齢者がふえているというような状況があります。そこで、今年度から独居高齢者見守りサポーター事業を開始いたします。この事業の内容については、その資料にあります、黄緑の紙のほうに書いておりますけれども、介護保険のサービスを受けておられるとか、あるいは施設等に入所されているなど、外部の目が届いている方を除いた、区内にお住まいの75歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の高齢者だけでお住まいの世帯を対象に、ボランティアが定期的にご自宅を訪問しまして、お変わりなく暮らされているかどうかを確認するとともに、何かお困りごとがあれば、基本、訪問したボランティアさんから地域ごとに置かれますボランティアリーダーさんを通じまして区役所に伝えていただいて、それに基づいて早期に適切に対応して、高齢者の皆さんが少しでも長く住みなれた地域で、安心して生活を送れるよう支援していこうという事業です。現在の取組状況ですけれども、実際に訪問していただくボランティアさんを募集しましたところ、現在のところ、区社協のボランティアビューローのほうに60名程度の登録がございます。今月7月に、登録者を対象に2回に分けて、高齢者の地域見守りの必要性和意義について研修を行いましたところ、48名の方に受講していただきまして、また来月の上旬には高齢者との接し方、話し方などより実践的な研修を予定しておりますけれども、32名の方に受講を申し込んでいただいております。一方、事業実施に向けまして、今月、大江地域を職員が二人一組で対象世帯を訪問し、この事業にご協力いただけるか確認に伺っております。引き続いて8月の前半には五条地域、それから8月の後半には聖和地域の対象世帯を同じく職員が二人一組で訪問し、事業に協力いただけるかどうか確認に回らせていただくことになっております。協力いただける世帯には、今後職員がそれぞれの地域の地域活動協議会から、ご推薦いた

だいた地域ボランティアリーダーさんをご紹介させていただいたり、あるいは地域ボランティアリーダーさんが実際に訪問に行ってください一般ボランティアさんを紹介させていただくということにしております。地域によりましては、高齢者の見守りを一般のボランティアではなくて、町会で行いたい、あるいは民生委員で行いたいというところもございますので、そういう地域の意向を踏まえまして、地域ボランティアリーダーさんや各地域と十分に調整して、この事業を進めていきたいというふうに考えています。そして、他の地域についても秋以降、順次取り組んでいくことにしております。

以上です。

○南委員

すみません、さっきから聞いておったら、25年度の話ばかりで、24年度のこれ今、実績・評価についての話と違うんですか。25年度の話なんですか。

○樋上PDCA担当課長

今、言われたように24年度の評価をするんですけども。

○南委員

そうでしょう。今、聞いておったら25年度の話ばかり。24年度はこういうことがあって、こういうことをやりましたという話を今するのではないですか

○樋上PDCA担当課長

24年度につきましては今、書いていますように、ちょっとまず参考に見ていただいて、24年度を踏まえて今、25年度の取組をしていますので。

○南委員

そういう話だったら、そういうふうには書いてないといけない。今、これだったら実績評価についてって書いてあるだけ。それから25年度、これからこういうふうになりますよということを書いておけば、僕もああそうですかってなるけれども、実績評価についてこうやりました、で24年度は終わり。それで25年度に関してはまた別ペ

ージ開けて、25年度はこういうことに関して話し合いしましょうという話ではないんですか。

○水谷区長

ちょっとそこを配慮して、これから説明しましょう。

○樋上P D C A担当課長

ちょっと資料の作り方がすみません、申しわけないですけども、24年度はこういう実績評価ということで書かせていただいているんですけども、これを踏まえて25年度ということで、ちょっとチラシのほうを見ていただきながらと思っていますので、よろしくお願いします。

それでは5ページになるんですけども、ここは2の1では保育所の待機児童解消ということで、昨年的人数とか成果とかを書かせていただいています。それで2の1から2の5までが「快適でいきいきと暮らせるまちづくり」という大きな項目になっております。その中でも2の1につきまして、今年度、昨年では地域の未来を担う人材ということで取り組んでいろいろと検討もしてきまして、これについて今年度取り組んでいくことにつきまして、先ほどのちょっとチラシのほうですけども、インターシップ生の募集ということになりますので、そのところを担当の河野課長よりよろしくお願いします。

○河野未来人材育成担当課長

皆さん、こんばんは。未来人材育成担当課長の河野でございます。失礼しまして座って説明させていただきます。

先ほどの資料の3枚目、色刷りのチラシの分でございますが、インターシップ生募集ということでございまして、これはこの7月から8月にかけて、天王寺区中高生向けインターシップ事業、そういうものを実施しております。通常、インターシップと申しますと、大学生などがみずから将来のキャリアプランに関連して、在学中に一定期間、企業のもとで就業体験を積むための実習制度をするということを目指

すんですけれども、この事業の対象は、そのチラシの下にございますように、天王寺区にお住まいの中学生、高校生を募集してございます。人員につきましては、真ん中
にございますように12名の方で実施しております。この事業につきましては、そう
いったインターシップでは大学生が通常なんですけれども、さらに中学生、高校生と
いう早い時期から社会人として働くのに必要な能力や、社会人としてのマナーを学ぶ、
そして将来どんな仕事がしたいか、将来自分が何に向いているか、ということを考え
るきっかけづくりとなるような事業ということで見込んで実施しております。事業で
は、市内、あるいは周辺の企業、事業所におきまして、学校では学べない実践的な職
業体験、そういったものを積むことで、社会で生きていく力を養う機会となるように
考えております。具体的には、その真ん中の下に第1期、第2期と書いてござい
ますが、この月曜日7月29日から5日間、それから、お盆明けの8月19日から5日間
というふうに2期に分けて実施する予定でございます。具体的な企業ですけれども、
裏面をごらんいただきたいと思います。募集の段階では、1番から10番まで、10
の企業を挙げておりましたんですが、実際には2番、3番、4番、それから10番、
その企業でございます。ミキハウス、これは子ども服や子ども関連商品の企画製造販
売をしておられます。それから、宇宙航空研究開発機構、これはJAXAというところ
です。宇宙ロケットの打ち上げなどを実施しているところでございます。それから
4番につきましては、東大阪のほうで技術の継承、技術者の育成というものに取り組
んでおられるという企業でございます。それから10番のヤフーでございますが、こ
れはインターネットの検索を主に手がけておられるところでございます。そういった
ところで、ミキハウスについては2名、それからJAXAについては7名、それから
地域基盤技術継承プラザでは1名、そしてヤフーでは2名の方を受け入れていただ
いております。例えばミキハウスではそこに書いておりますように、海外のバイヤーさ
んに向けた展示会や商談のアシスタントを努めていただくということをやつてござ
います。そうしたことで今年度初めての取組ということで、取り組んでおることござ

います。

インターシップ事業につきまして説明は以上でございます。ありがとうございました。

○樋上PDCA担当課長

次に7ページですけれども、ここは経営課題の3「歴史や文化を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり」ということで、3の1では天王寺区の魅力の情報発信と、集客イベントの促進と、3の2では商店街の活性化ということで書かせていただいております。それぞれ取組状況とか、またごらんください。それで今年度、昨年度から取り組んで、今、戦国博ということで取組を継続して進めさせていただいております。このことについて、森代理のほうから、説明をよろしくお願いいたします。

○森シティ・プロモーション担当課長代理

天王寺区役所市民協働課、シティ・プロモーション担当課長代理の森と申します。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

24年度の天王寺区の魅力の情報発信と集客イベントの促進の実績と評価をいただきまして、大坂の陣400年を迎える平成26年度、27年度に向けて、戦略的・継続的な展開が必要な事項であることから、今後も継続して取り組みます、ということで、25年度の戦国博の計画を立てていこうというところでございます。戦国博という、仮称ではございますけれども、天王寺区内で区民の皆様がお住まいの町に誇りをもっていただき、また区外の皆様もたくさん天王寺区に訪れていただいて、天王寺区の良いところ、魅力に出会っていただけるよう、天王寺区イコール歴史の町というブランニングを強化していくために、大坂の陣から400年のシンボルイヤーに当たります、冬の陣からの400年目の2014年、1615年の夏の陣から400年目の2015年に、戦国史などを気軽に楽しんでもらえるイベント、中身はまだ決まっておきませんので、仮称戦国博としておりますけれども、その計画を今年度1年かけてつくっていく予定でございます。そのチラシの4枚目のところに赤いチラシを入れ

させていただいておりますけれども、ふるさと寄附金対象六文銭ファンドというところで、戦国博の開催に当たりまして、市民の皆さんからの寄附金を募集しているところでございます。戦国博の内容につきましては、今後、2番目の六文銭ファンド（寄附金）の使い方というところに若干、開催イベント例として書かせていただいております。激闘！大坂の陣、大阪市内まち歩き・マラソン型イベント、真田幸村コンテスト等まだ中身を具体的に検討しているわけではございませんが、あくまでも案の事例ということで書かせていただいておりますが、というところを11月の冬の陣とか、5月の夏の陣のメインコアイベントを中心に、それまでの機運盛り上げイベントでありますとか、その後の天王寺区の知名度が上がっていけるようなイベントを、今年1年かけてつくっていき、2014、15年度にイベントをしかけていきたいというふうに思っておりますので、皆さんのご協力もご意見もお伺いしながら、予定を立てていきたいというふうに思っておりますので、ご協力よろしくお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひします。

○樋上P D C A担当課長

それでは次、8ページになります。これは経営課題4「つながり合い、支え合い、助け合うまちづくり～大きな公共を担う活力ある地域社会をめざして～」ということで、4の1では、多様な協働による地域活動の活性化、4の2では、連合振興町会エリア単位での課題の共有と解決へ向けた取組の支援ということで、書かせていただいております。4の2にかかわりましては昨年度、地域活動協議会が6地域新たに立ち上がって、今、天王寺区では全地域立ち上がっております。今現在のこれらの地域活動協議会の活動につきまして、先ほどのピンクのチラシの後にまちづくり瓦版というのがございます。これを見ながら、担当の小川課長よりご説明お願ひいたします。

○小川市民協働課長

いつもお世話になっております、市民協働課長の小川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。座らせていただきます。

まちづくり瓦版ということで、これ第1回目なんですけれども、天王寺区まちづくりセンター支部というのが、昨年11月に区役所の3階に設置されまして、今、区役所と一緒に地域活動協議会の運営支援ということをしていただいております。この内容なんですけれども、まちづくりセンター支部は区役所と協働で地活協の取組を支援しますということで、今現在、広報活動支援とか会計処理支援等々をやっていただいております。資料の下の方に、地域活動協議会の紹介というところで、ちょっと簡単に写真をつけて記載をしているのでございますけれども、地域活動協議会ということで、防犯防災、子ども青少年に関する活動、福祉や地域コミュニティということで、さまざまな活動を、4月からふれあい喫茶や子育て支援サークル等々の、通常の今までからやっていただいていた事業を地域活動協議会として、実施をしていただいているんですけれども、それ以外に子どもから大人まで大にぎわいということで、今まで開催された、春のミニミニ音楽祭とか、桃陽ふれあい祭りとか、宰相山キッズフェスタということで、そのちょっと掲載をさせていただいております。裏面を見ていただきますと、今、9つの地域活動協議会それぞれ今年度の事業ということで計画をしていただきまして、抜粋として載せさせていただいております。今、地域活動協議会3つのモデル地域ということで、平成24年度から既に活動はしていただいているのでございますが、今年度以降、9つの地域活動協議会それぞれ活動していただくんですけれども、まだまだ新しい人の参画とか、新しい担い手の育成というところが課題の一つかなと考えております。広報ということに関しましては、区の広報紙とか、区のホームページ以外に、9つの地域活動協議会の広報ということで、今、まちづくりセンター支部と各地域活動協議会、協働でポスターをつくってもらいまして、各地域の町会の掲示板とか、市の広報板にも掲載していただいておりますけれども、それらの紙媒体以外に、また各地域活動協議会で今後、ホームページとかフェイスブックというような広報をしていただきたいと思いますと思っております、それについてはまちづくりセンター支部と一緒に、各地域活動協議会と取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

まずは、地域活動協議会を知っていただいて、各行事に参加をしていただいて、地域活動協議会に参画していただくというのが、これからの目標と考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○樋上P D C A担当課長

最後、9ページですけれども、経営課題の最後、5番目「区民の声集約プロセスの強化」ということで書かせていただいています。5の1から5の5までございます。5の2ですけれども、先ほど区長の挨拶にもありました「あなたの声をつなげ隊」というのが昨年8月に発足しまして、その取組ということで、最後のチラシの、先ほどの瓦版の次に、あなたの声がどういうふうにつながったということも含めて、取組状況を書かせていただいています。この点につきまして、担当の糸川課長代理よりご説明いたします。よろしくお願いいたします。

○糸川区民の声集約担当課長代理

皆さん、こんばんは。区民の声集約担当課長代理の糸川でございます。座らせていただきます。

私のほうからは、この区民の声集約チーム「あなたの声をつなげ隊」につきまして、簡単にご説明いたします。活動実績につきましては昨年は、学校選択制につきまして、1,183名を初め、1,778人の方から直接ご意見を頂戴しております。今年度につきましては、子育て施策のことについて今現在やっております、約400名、それから今後につきましては、先ほどご紹介しました、独居高齢者等見守りサポーター事業につきまして、皆様方から意見を聴取していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○樋上P D C A担当課長

以上、経営課題の1から経営課題5まで、平成24年度の天王寺区役所の主な取組内容の実績及び評価、また24年度を踏まえての新たな取組などについて、ご説明を

させていただきました。以上で、区役所からの説明を終わらせていただきます。

中野議長、よろしくお願いいたします。

○中野議長

どうもありがとうございます。ただいま区役所のほうから説明がございましたが、ただいまより説明についてのご意見、そしてまたご質問をお願い申し上げます。発言される方につきましては、挙手をお願いします。なお、時間が多少おくれております。できるだけ簡潔にご質問のほどお願いを申し上げるとともに、回答のほうも速やかにお願いを申し上げます。

何かご質問ございませんか。

南委員、どうぞ。

○南委員

すみません、南です。経営課題1、災害に強くと書いてある1の1で、括弧に具体的取組の実施状況となっていましたけれども、その収容避難所の新規指定が4カ所、収容避難所の備蓄物資の配置、6カ所と書いてありますけれども、最終的にはこれは何カ所になるとか、そういうのは把握されているのでしょうか。

○和田危機管理課長

最終的には区内20カ所になるんですけれども、ここで言う新規でふえたのが、明星高校、それから天王寺スポーツセンター、そのあたりが平成24年度にふえたところで、最初2カ所だったのが4カ所というふうに書いているんですけれども、それは地域防災計画ができていますので、ここが避難所になったのと、今度8月1日に広報紙の中で、防災の特集号を載せますので、その中に20カ所全部載っていますので。それで今度は新聞折り込みではなくて、各ご家庭のほうのポスティングでお届けしますので、それを見ていただいたら20カ所全部わかるようになってあります。

○南委員

備蓄物資の配置6カ所となっていますが、最終的には20カ所ということですね。

今、6カ所というのは、あと14カ所はまだということですか。

○和田危機管理課長

小学校については13カ所、天王寺商業に行ったらありましたので、あと私立の分と府立高校の分を追加で、発電機やリヤカーですね。そういう物品、救助資機材を今、入れていっているということです。24年度に6カ所入れたということです。

○南委員

それで、避難の訓練ですね。以前、うちの真田山地域では、地域が全然違うのに離れた真田山小学校まで行かせてもらいましたけれども、今回、高津高校とか明星高校とか、今言ったスポーツセンターとか、そういうところではやられるのでしょうか。

○和田危機管理課長

今現在、真田山の地域活動協議会の安心安全部会のほうで災青さんを中心に、去年が小学校の全体でやったので、もし高津中学でするとか、今、災害救助青年部と地域活動協議会の中で、どこでするかというのを協議してもらっています。

○南委員

それはやるときは、各避難所に逃げる地域決まっていますね、場所。ここの地域はここに逃げてくださいという、だいたいね。そういうとき、やるときはその地域の方々に、皆さんこういうことをやりますということを、地域の方々に言ってもらえるんですね。地域活動協議会といってもできたばかりで、はっきり言って町会で動いているところと、町会以外の方々にやるのが地域活動協議会と聞いているので。

○和田危機管理課長

それは町会単位でその避難所の当番を決めているので、関係のところにはそこから、班回覧なりポスター、チラシでお知らせするようには地域活動協議会と相談しています。

○南委員

それは皆、一緒ですね。各、全部ですね。真田山地域ははっきり言って4つも5つ

も分かれておるけれども。そうしたらすみません、よろしくお願いします。

○中野議長

次、どなたか、ご意見ありませんか。

ご意見ございませんか。ないようでしたら…。

○水谷区長

中野さんから何かありますか。議長のほうから。

○中野議長

私のほう、議長席からちょっと発言させていただいていいですかということをお願いしていましたが、高齢者の対策につきましてちょっとお聞きしたんですが、前はこの高齢者対策というのは、主に社会福祉協議会のほうの推進員さんが受け持っていた仕事なんですね。これをこのたび、その制度がなくなりまして、区役所のほうの保健福祉課のほうですか、こういうふうになっているわけですが、高齢者というのは非常に人見知りのしやすいような方が多いんですよ。すぐ知らん人を招き入れるというようなことは案外少ないと。ということは、たびたび見守りに来ていただく人の顔が変わるということは、非常に不安を感じるということですか、先ほどのお話では60名の方が名乗りを上げておられるということですが、推薦されるということですか、お願いされるときには、できるだけ長期的に活動をしていただけるような人を募集していただきたいというふうに思います。より多くの方の中から、長期的、最低2年や3年は続けてこの見守りができるようなお方というふうに、我々高齢者は、私自体はそう思うし、この中にも高齢者の方いらっしゃいますけれども、思っておられるんじゃないかなというふうに思います。この点一つ、よろしくお願い申し上げます。

○水谷区長

中野議長、ご意見ありがとうございます。本当にご指摘のとおり、ご高齢の方の中には、本当に人見知りな方も多くおられると思います。大阪市全体でも独居高齢者の比率が多くて、また天王寺区もその例外ではなく、先ほど職員から4割が独居高齢者

というご説明もありましたが、人見知りな方、多いのも事実なんですけれども、やはりこういった方々に対して、ちゃんと命をお守りするという活動を進めないといけないという喫緊性もあるのも事実でございます。そういういながらやはり、誰でもかかれでもマンパワーだけ集めて訪問活動すればいいということではないので、60人今、ご応募いただいているところでございますけれども、しっかりと研修のほうをさせていただきたいと思っております。

今日、社会福祉協議会さんのほうでも、この地域の高齢者見守り活動についてのシンポジウムが行われたんですが、その中でパネリストの区民の方から、例えばマンション建設が今、非常に盛んになってきた桃陽地域ですね、こういったところでも独居高齢者が非常にふえてきていると。一戸建てに住んでおられる方であれば地域のネットワークで助け合いということも可能なんですけど、特に高層マンションの中でおひとり暮らしされている方などは、なかなかオートロック等々の問題もありますから、地域の民生委員さん等で急にアプローチすることが難しいと、こういうところをやはり職員が率先して行って、その情報を、もちろんご本人が今後継続的な訪問について積極的同意をしたという前提が必要なんですけれども、そういう前提がある場合は、その情報を地域に共有してもらいたいということを言われていました。やはり地域でやれる部分はどこまでか、でもここからはやはり行政がどうしてもやらないといけないという部分がございますので、そうしたところについて、これはもちろん桃陽地域のみならず各地域によってやはり実情が違うと思いますので、それぞれの地域の民生委員さんを中心とした区民の方と対応させていただく中で、一番最良な役割分担というものを確保してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○中野議長

どうもありがとうございました。ほかに、ご質問ございませんか。はい、どうぞ。

○栗谷（信）委員

失礼します。区政戦略会議の栗谷でございます。インターシップ事業のことでちょっとお聞きしたいんですけれども、私も説明会、お邪魔させていただきまして、子どもに参加してみたらどうだということでちょっとお願いしたんですが、子どものほうもクラブ活動や学校の富士登山等でなかなか参加できないということで残念だと思っているんですが、10社ご提案いただいたんですが、今、河野課長のお話を聞きますと、4社になったということで、これは魅力ある、子どもたちの目から見て魅力ある、魅力ないというのがあると思うんですが、その辺の応募というか、希望者というのはやはり、JAXAさんが7名ということで、すごく魅力あるということを僕も思っていたんですが、ほかの希望者というのはあったのでしょうか、なかったのでしょうか。もしこれに基づいて今後さらにもっと魅力ある事業に、次回ができるのであれば、いい方向に進めばと思っていますが、ちょっとこの辺の、僕、ほかの参加がなかった企業さんにはどうだったかというのを聞きたいと思います。お願いします。

○河野未来人材育成担当課長

ありがとうございます。インターシップ事業につきましては、ただいまご質問の件につきまして、募集定員は12名でございまして、実は募集期間もちょっと短かったこともございます。それから、天王寺区内の中学生・高校生ということで限定させていただいておりましたので、区内の中学・高校に働きかけまして募集したところなんですが、今委員ご指摘のとおり中学生・高校生も夏休みは忙しい事情もありまして、実は募集定員ぎりぎりの応募がございました。12名の方の応募をいただいたということで、12名派遣させていただいております。やはり今、おっしゃっていただいたように、学生さんにとって興味があるところに集中したということで、結果的に2番、3番、4番、10番という4つの会社に集中した形でございます。これは10社になりましたのは、このチラシの一番下に事業受託者という、KEGキャリア・アカデミーというところがこの10社とはお話をつけていただいて、受け入れられますよということでご提案をいただいております。受け入れ人員もこのチラシの裏の一番右側

に受け入れ枠と書いてございますように、12名以上の受け入れが可能だったんですけども、結果的に希望が集中したということでその4社になったというところがございます。それでほかの6社につきましては、KEGのほうからまた、こういった状況ですというのを説明させていただいて、また次回以降、こういう機会があればお願いいたしますということで、丁寧に話をさせていただいております。

以上でございます。ありがとうございました。

○中野議長

ありがとうございました。

ほかにはございませんか。

○原田（恵）委員

すみません、ふるさと寄附金のことについてお伺いしたいと思います。これは6,000円以上が寄附になるのでしょうか。

○森シティ・プロモーション担当課長代理

お答えさせていただきます。6,000円以上だと特典を出させていただいているというところがございます、別に1,000円、2,000円からでも結構でございます。

○原田（恵）委員

それで私は一つお願いがあります。私、去年、公募委員に選んでいただいてとてもうれしかったんですね。それで天王寺区に寄附できる場所があればしようと思って、今、天王寺動物園のサポーターになったりとか、あと寄附できる場所、幾つかさせていただきました。ただ、一口1,000円というところがありまして、それで1,000円でもいいんですか、と私がお伺いしたときに、向こうの人が「いいです、ちりも積もれば山となりますから」とおっしゃったんですね。私はその当時、今もその大阪府の最低賃金で働いておりますが、その当時786円だったと思います。本当に1,000円で申し訳なかったんですけども、そのときちょっと悲しい思いをし

した。ですから、これ6,000円される方も100万円される方も区役所の方は、多分そんなこと区役所の方はされないと思いますけれども、金額の違いがあってもその方にとってのお金の重みは同じだと思いますので、その点、各種団体様の方もよろしくをお願いします。すみません、失礼しました。

○中野議長

ありがとうございます。確かにおっしゃるとおりですね。

次、どなたかございませんか。生駒委員、どうぞ。

○生駒委員

すみません、3ページの1の5です。土地の区画整理の件です。めざす成果の達成状況で、約60%達成したと書いてあるんですけども、警察署の前の都市計画道路について、あれはもう全く計算に入っていないわけですね。しかもそれを不愉快に感じている人というのがいっぱいおるのに、もう6割の人は満足しているというように感じるのは、どういうことなんですかね。4割の人は、不満に思っているということですかね。ここの計算がちょっと、全くわからないというのが一つです。

それから、遊休の土地がいろいろあるのに、それが放置されて、恐らく減収になっていると思うんですけども、そういうことについての言及がどこにも出てこないんですよね。そういう点で、非常に心配しているんですけども。

○中野議長

ありがとうございます。

○水谷区長

生駒委員が示されている懸念といいますか、不安というのは、非常にもっともなことだと思うんですね。今回ちょっと、運営方針の振り返りのこの、概要資料ということもありまして、3ページが具体的にそれはどこの道路なのかどこの公園なのかという特定したような書き方にはなっていない、道路も公園も安心して、安全で快適に利用できる感じる区民の割合というのが59.2%という書き方になっていましたけ

れども、当然これはおおむね60%を達しているからということで、安心して構えているわけではなくて、生駒委員の先ほどお話の中で言われた、警察署の前のところですね、確かに私も通っていてやはり歩道も狭いですし、あそこに自転車も通るし、子どもさんも通られるし、非常に危険を感じるのはよくわかるお話です。ですからそういう問題認識は、今後も引き続き堅持してまいりたいと思いますし、区内見渡しますと、あの場所だけではなくてほかにも、大きな道路から小さな道路まで、非常にいつも接触事故の危険性があるようなところもございます。ただやはり都市整備に関して、予算とあとほかの区でも同じような課題があるところがありますから、順番に進めていくに当たってどうしても、他区を差しおいて我が区を言ってもなかなかうまくいかない状況でございますから、粘り強い局との意見・要望の調整が必要となってきますけれども、問題の認識自体は今もなお、ございますので、それだけちょっとお伝えさせていただきたいなと思います。どうもありがとうございます。

○中野議長

生駒委員、よろしいですか。

それでは時間も時間でございますので、あと一つだけ質問並びにご意見をお伺いしたいと思います。最後のご意見でございます。どなたかございますか。

はい、飛田委員、どうぞ。

○飛田委員

戦略委員の飛田と申します。1-4に関してなんですが、確かに放置自転車の台数というのを聞いて自転車が少なくなったとは思いますが、うちの母親も含めて年寄りの方によく言われるのが、天王寺だとか上本町とか買い物にいったときに、年とった人は自転車置き場に自転車を置いて歩いて物を買うに行くことはできなくて、その商店の前に自転車を置くともうすぐ持っていかれて、とても自転車で買い物ができないという意見もあるんですが、この辺について何か対策というのはあるんでしょうか。

○和田危機管理課長

今現在、放置禁止区域内は、上本町6丁目周辺に関しては即時撤去という形で撤去されているんですが、それ以外は1時間以内の猶予はあるんですけども、できる限り駐輪場なりそういうところに入れてくださいということで、自転車利用のマナーの向上ですね、そういうお願いをしているんですけども。具体的におっしゃっているのは、どちらの駅周辺になるんですかね。

○飛田委員

まず一つは上本町、とあと天王寺の商店街のところ、天王寺というか天王寺駅に行く参道のところなんですけれども、やはり誰かに見ておいてもらわないとすぐ持っていかれると。確かに若い人だったら駐輪場に置いて荷物を運ぶというのはできると思うんですけども、やはりある程度自転車でしか動けないお年寄りの方というのは、即時に持っていかれると、多分買い物も何もできないし、例えばお肉屋さんの前に自転車を置いたらもう持っていかれてしまうような状態だと、落ちついて買い物もできないと言われたので、何かその辺というのは、例えば高齢者の方だけでもマーク何かつけて、その人が買い物しているくらいだったらいいような方策というのはとれないのかなというのが、今の質問なんですけれども。

○和田危機管理課長

確かにそういうご意見、市民の声でもかなり伺っていますので、自動車でもあるのに駐車禁止除外とか、高齢者専門のマークなり、建設局とも相談をしてみますけれども、自転車、電動自転車が無いと移動できない方もかなりおられますので、その辺はいったん区役所のほうでも検討課題として、関係局に聞いてみます。天王寺駅周辺にも今現在、JR天王寺の駅前に60台とか、駐輪場、北口は少なかったんですけども、JRと協力して駐輪場をどんどんつくってもらうようには、今現在ではなっているんですけども。阿倍野側はかなり、2,000台の駐輪場があるんですけども、天王寺北口は動物園の臨時駐輪場以外は今のところないので、ご迷惑はかけていると

思います。

以上です。

○飛田委員

一応、駐輪場という話ではなくて、仮に置くような措置をとってほしいということだったので。駐輪場があるのはわかります。

○水谷区長

今、飛田さんが言われたその除外とかできるかどうかは、局に確認して、できるんだったら検討してください。

○中野議長

よろしいですか。

それでは、本日の議題（２）を、これをもって終了させていただきたいと思います。いろいろご意見、多数まだあろうかと思いますが、時間の都合上、どうぞよろしくお願いを申し上げます。ここで、議長を交代させていただきます。

田中議長、どうぞよろしくお願ひします。

○田中議長

それでは、これからよろしくお願ひします。

議題３の、区政戦略会議からの報告について、議事を進めさせていただきます。私のほうからは区政戦略会議のこの間の状況を、少しご報告させていただきます。

区政戦略会議は昨年１０月に、第１回会議を開催し、その後は６月まで計６回開催してまいりました。当初は、区政に関する意見具申等行っておりましたけれども、委員の中から作業部会をつくってもっと詰めた議論をしたいということで、教育・子育て・国際交流作業部会と防犯・防災・地域社会作業部会、並びにシティ・プロモーション作業部会の３つの作業部会に分かれて会議を重ね、その調査・研究の成果を踏まえて、戦略会議で議論を進めてまいりました。今日は、各作業部会の１年間の検討結果を資料として、提出しております。それぞれの作業部会から報告させていただきます。

すので、委員の皆様よりご意見、ご助言など後ほどいただくように、と考えております。

それでは、教育・子育て・国際交流作業部会より、順番に報告をお願いします。では出水委員、お願いします。

○出水委員

戦略会議の出水と申します。よろしくお願いします。

教育・子育て・国際交流という作業部会で活動させていただいておりました中で、今回の提案をさせていただく分、何個か案はあったんですけども、まず一つ選んで今回これを、話を特に重点的にさせていただいたものを提案させていただきます。

お手元の資料、13ページになるかと思いますが、今回「TERAKOYA」という、あくまで仮称ですけども、そういうものを提案させていただきました。基本理念として、やはり教育に対する強い思いを持った親御さんが多い、あと文教都市としての天王寺のイメージ、こちらを汲んだ内容として、今回、企画させていただいております。基本理念等、ここに書いてあるとおりなんですけれども、実際国際交流等々、国際化の子どもを育てるためにじゃあ何が必要なのかといったときに、単にイコール英語がしゃべればいいと、そういうものではないと考えております。まずは自分の考えをしっかり持つこと、自分と他人との違いをしっかり理解して受け入れること、これはただ単にそのグローバル化、ボーダーレス化というものに対してだけではなくて、昔からあった格差社会だとかいじめ等についての諸問題に対して、これもやはり、必要不可欠なものではないかということで、次世代を担う子どもに対して夢のある提案をしようということで、この話を進めさせていただきました。

では子どもたちにどういうものが求められているのか。やはり自分の意志・意見をしっかり持って、表現できること。あと、異なる文化、伝統を理解して敬意を持つ。また国際交流となれば、あながちおろそかにしがちですけども、自国の文化・伝統というのをやはりしっかり理解し伝えられるという能力、やはりここが必要になって

くると思います。そこで子どもたちにやはり、学校教育だけでは物足りない、ここで学べない、本物の体験をする機会というのを次に提供したいと考えております。

それで2つ、討論教室というのとアンバサダー会議、2本立てで今、考えておるんですけども、まず討論教室というほうは、あくまでも将来的にはディベートまで持っていきたい、自分たちの意見をしっかりと持って相手にどれだけそれを伝えられるか、また相手の意見をどれだけしっかり理解して、それをまた自分の意見として考えられるか、というのを重要視したものです。なので人数的に少ない人数で、あとテーマなんですけれども、今、あくまで案ですけども、実施案として挙げているような感じで、なかなか答えがはっきり出ない項目が多いと思いますけれども、しっかり考える機会を提供したいと思っております。

もう1つが、子どもアンバサダーというものになるんですけども、もうちょっとやわらかく、いろんな経験をまずしようということで、いろんな、教科書とかテレビの映像だけではなかなか感じられない本物の世界というものを自分の目で見て、肌で感じて、それで自分の頭で考えて、そういう機会を提供したいと。それが将来的にその子どもにとって学びの入り口になればと思っております。実施案としては下にあるように、世界をゲーム感覚的に感じるもの、あとは実際に総領事館の方であるとか総領事の家族の方とか、実際にそういう方に直接触れて、自分で、与えられるものだけでなく、何かを感じてほしい。あと、一番これが重要だと思うんですけども、日本文化というのをしっかり学んでほしい。どうしても、うちも留学生と触れ合うことはあったんですけども、外国の子どもさんは自国の民族衣装を着て、自国の歌を歌って、自分の国がこういうことだと教えてくれるんです。ただ日本人が、じゃあ自分で着物を着られるのか、茶道・華道とこういうものができるのかといたらなかなかそれは難しい。実際のところ、なかなかそれができる子というのは少ないということで、やはり国際交流という名のもとに、世界に羽ばたこうとか、そういう子どもに対しては、やはりそういうところをしっかりと学んで、身につけてほしいという思いがあり

ましたので、これをぜひ、そういう形で体験する機会というのを設けたいと思っております。

あと、実際それを思いだけで進めていけないものではないので、実際それをどうやって運営していくかということになりますけれども、地域に根差したNPOを中心にするとか、あと区役所と大阪国際交流センターというのが天王寺区内にありますので、そういったところに、やはり一緒になって考える、進めていくという方法をぜひご検討いただければと。

あとは地域の、どうしても皆さんの、企業の方であるとか、本当に地域で子どもを育てるといふ思いを形にさせていただいて、そういう形で運営していく方法が、やはり必要なのではないかと考えております。継続的にしていくために、子どもたちにとってはやはり興味を、なかなか薄まらないように、しっかりと興味を持ち続けていただくために、いろんな方法で子どもの興味をひけるようにしていきたいと考えております。将来的には、いろいろ今、ほかの市町村さんとかで民間の、大学という名前の講座を開かれたりとか、本当にその道のプロの方をずらっと並べて講義されるというところがふえてきています。やはりそういうものを見ていると、子どもたち、ものすごい募集の中で、泊まりがけでそういうのに参加される子どもさんとかもいる、そういう中では子どもたちにとってプラスになるという形をきっととれると思いますので、大人がまず、これは子どもには早いんじゃないかという頭を一切のけて、非常にこんなことで、こんなことまで考えていいのかなというようなテーマになるかもしれないですけども、そういったところ、ただ恐れずに子どもたちに実際ぶつけていければなど思っております。「TERAKOYA」という名前で一括りにさせてもらいましたけれども、教育・子育て・国際交流作業部会の中では、この案を区役所のほうにご提案させていただきます。

以上です。

○田中議長

続きましてあと2作業部会やった後でご意見、ご質問承りたいと思いますけれども、2番目は防犯・防災・地域社会作業部会、越村委員、お願いします。

○越村委員

防犯・防災・地域社会作業部会の越村です。よろしくお願いいたします。

当作業部会は8名のメンバーで、ほぼ月1回のペースで会議をもってきました。他作業部会と違いまして、この作業部会ではそれまで実施されてきた、防犯・防災・地域社会に関する事業について、強化や見直し点の洗い出しを行ってきました。具体的には21ページにありますような、その他の本作業部会でのトピックということで、いろんな課題について話し合いをしてきました。

今日は、この全部を網羅してご報告するにはちょっと時間も足りないということもありますし、今年度、先ほど説明もありましたように、一番やはり目玉的事业として独居高齢者等見守りサポーター事業というのが開始されますので、それについて、やはり私たちの作業部会では一番多くの時間を割いて話し合いをしましたので、その報告を中心に進めたいと思います。

まず最初に、資料のご説明なんですけれども、22ページから24ページにつきましては、天王寺区役所がつくられたこの事業の資料でございます。その中の23ページに、19と20を見開きになって真ん中が、ちょっとこれA3サイズの資料なもので、ちょっと半分に切れてしまっているんですが、19、20のところにあります真ん中の、ちょっとわかりにくいんですが、独居高齢者等見守りサポーター事業役割分担と説明資料というところ、わかりますでしょうか。19、20ページをごらんください。その真ん中の部分は、もともと区役所が作成した資料でございます。それに対して、私たちの作業部会でいろいろなことを、こうじゃないかというようなこと、こうしたらいいんじゃないかということを話し合いましたので、周りにピーっと線が引いてあったりするところが、私たちとしての意見・提案であります。今まで地域でもいろいろなことが事業として、地域の輪づくりということで地域福祉、今日の社会福祉

協議会の報告、フォーラムもあったんですけども、いろんな事業が行われているんですけども、今回行政サイドでこういう事業を進めようということで、幾つかの提案をさせていただいております。

左のほうから、まずスーパーバイザー、ボランティアリーダー、ボランティアをめぐる課題、これにつきましては、スーパーバイザーとつなげ隊の質の担保、現在（スーパーバイザー）2名で進めておられるということなんですが、やはり3名体制、いわゆるこの仕事の重大さを考えると、3名体制ぐらい要るんじゃないかなと。でも今年度の予算もありますし、できましたら来年から3名体制に増員していただけたらどうかというような話や、次、ボランティアリーダーの確保と研修、特に地域のボランティアリーダーさんがやはり、役割的にかなり大きなものを担っておられる割には、有償ボランティアといいながらやはり報酬額が少し低いのではないかとということで、次年度はできたら、見直ししてはいかがでしょうか。あとボランティアの確保と研修ですね。先ほど、お話にも出ておりましたが、公募の方たちだけではなくて、やはり今地域の活動にかかわっている方々も巻き込みながら、地域ごとの形をつくりながら、やっていくことがやはり大事ではないですか、という提案をさせていただいております。

あと、情報管理につきましても先ほど、お話が少し、区長のほうとかから出たと思うんですけども、やはり集めた情報を一元的に管理して、もちろん管理は必要なんですけれども、命にかかわることでもあり、できるだけ状況に応じて地域と共有をしていくとか、緊急の際にはやはり何とか開示できるようなシステムを整備していただけたら、より効果的なものになるのではないかとということ。

そして、区役所としての実施体制ですね。これも担当課間の連携を強めていくことがまず何より大事ではないかと、特に他事業との連携をとることが効率的であると。先ほど家具固定事業の話もありましたけれども、せっかく訪問するのであればこういう事業、あるいはほかの高齢者に関連する事業についても、お勧めするなり説明する

なりして、効率的に進めていったらどうでしょうかというふうに書かせていただいております。

右の上のほうにありますけれども、評価ですね。やはりこのような事業は非常に評価が難しいのですけれども、やはり評価をしながら、それが評価してあかんかったから潰すとかいう話ではなく、前向きにここの点をもっとこうしていったらいいとか、そういうPDCAサイクルに活用できるような評価がやはり必要であろうと。具体としましては、やっと始まり出したところの事業でありますので、秋ごろをめどに、もう一度事業の進捗状況を確認していこうというふうなことで、合意をしております。

右の真ん中辺、一番右端の真ん中辺にずっと書いてあるんですけれども、非常に行政としてこの事業、責任を持ってやっていこうという事業でして、多分全国的に見ましても、地方都市なんかに行きますと例えば保健師さんが各戸、全戸を訪問するとかという事業はあると思うんですけれども、都市部でこういう事業が始まるというのは非常に画期的なことであると思いますので、せっかく始めるんだから、効果的に実施をしてほしいと。そのためにはやはり行政だけではなくて、例えばご本人が継続的に見守り、今回の対象というのはご本人が希望された方ということなんですけれども、私はいらないとか言う方に対しては、やはり民生委員さんや地域の何げない見守り、今日のフォーラムでも出ていましたが気遣いというか、そういうものがやはり不可欠でありますし、見守りをもし希望した場合にも月1回だけ行っても、やはりそこでは孤独死の防止とか早期発見ということが難しいので、日常的なやはり見守りが必要でありましょうし、比較的課題の少ない高齢者の方については、地域のふれあい喫茶や食事サービス、あるいは介護予防教室につなぐなど、地域による見守りの輪づくりを、今もすごくされているんですけれども、区としてもこれまで以上にやはり支援をしながら、重層的な取り組みというのが、展開していく必要があるのではないと思います。

あと、天王寺区内、いろんな報告も今日ありましたけれども、やはり地域によっていろんな形やいろんな個性もありますし、活動の内容、濃淡があると思いますので、

これを機会にぜひ、区全体としての活発化を図るために、例えばよその地区の実践例を紹介するなどして、お互いの活動の手法を学び合うための地域活動フォーラムを開催してみたいかかと提案をしております。

あと、やはり基本的に見守り活動が必要なんですけど、それでもやはり、ちょっと高度な問題を抱えた方については、やはり専門家の関与も必須ですので、既存の社会福祉的資源、高齢者をめぐる専門機関というのは今もたくさんあって、いろんな会議がいろんなところで頻繁に行われておりますので、それをもう少し機能的・有機的に連携しながら負担のない範囲で、例えば専門機関の方々にとっても、いっぱい会議があると、いっぱい出て行って時間的にとても大変というところもあるので、その辺がうまく機能するシステム、区役所なのか、地域包括支援センターなのかわかりませんが、どこかが基本に取りまとめて、まとめていくようなシステムを区全体として構築して行って、このせっかくの事業を重層的な取り組みでうまく展開していけたらなというふうに考えて、こういうふうなシートをつくってみました。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

3番目ですけれども、シティ・プロモーション作業部会、田中（創）委員以下3名でご報告いただくということですが、よろしく願いいたします。

○田中（創）委員

シティ・プロモーション作業部会の田中創三郎と申します。今回は私と、あと田淵委員と渋谷委員の3名で途中交代しながらご報告させていただきます。

シティ・プロモーション作業部会としては、にぎわいという点からまちづくりを考えていこうということを実施してきました。その際に大きな方針としましては、ハコモノへの投資とか、一発もののビックイベントということではなくて、既にある資源、資産、そういったものを有効利用していくこと、そういう提案をしていこうというふ

うなことで、考えを統一しました。その結果として、区として天王寺区内で最も利用の余地、価値ではなくて余地が残っているのは天王寺公園だという結論に達しています。天王寺区は文教地区であって、住宅地としての魅力も高いんですけれども、ただそれだけではなくて、天王寺、鶴橋、上本町という3つの大きなターミナルをその周辺部分に持っていて、商業エリアとしても魅力がある、そういうおもしろい町だと思っています。ですので、それなりによその町からお客さんをお呼びする、そういった潜在的な力を持った町だと思っています。ただ足りないのが、町にある資源というか、見どころというのを回遊していく、そういうルートが一番欠けているのではないかと考えています。そういったその回遊性というものをどうやって作り出していくかということを中心に提案させていただきたいと思っています。

天王寺区の中で動線が生きていない最たる例ということで、天王寺公園の周辺、そこが一番の問題点だと考えています。例えば、公園周辺には四天王寺とか一心寺とか愛染堂といった寺町がありますけれども、公園周辺を楽しく散策できるような環境が整っていないと、寺町の魅力というものはっきり、十分活かし切れないと思うんですね。ですので、そういった公園エリアの回遊性を高めるということを通じて、既にある寺町という資産を有効活用していくということの効果も期待できると考えています。ですので、天王寺公園をどうやって有効活用していくかということで、28ページの上のほうなんですけれども、二つの方法があると考えました。

一つ目は動線をつくっていくということ。動線といってもターミナル、天王寺駅方面からの動線、それから北側の寺町からの動線ということが考えられます。それから二つ目としては、そうやって来ていただくにも、アクセスをよくするだけではなくて、公園自体にもっと魅力がある、そういった公園にしていくことも大事だと考えています。一つ目の、動線の作出ということで、まずその1ということで、ターミナルからの動線ということです。天王寺公園というのは、JR天王寺駅、地下鉄天王寺駅から非常に近いということで、本来であれば抜群のロケーションにあるはずなんですけれ

ども、ただ直線的に公園まで入ることができない、そういう現状です。それを動線を変えることで、人通りを生み出していくことが大事かと考えています。そのための具体案としては、29ページの上のほうの写真ですけれども、この写真の矢印、二つあるんですけれども、上のほうが現在の現状です。一回北のほうに上がって、駅から一回信号を渡って、北口商店街に行って、そこから30メートルほど北にのぼって、そこでやっと信号を渡り谷町筋を渡る。渡った先にあるのは公園の正面入り口ではなくて、大分離れているんですね。そこからまた南下して、公園の入り口まで戻ってこないといけないという、こういう状況になっている。これは、公園というのは本来、お金をとるような施設ではないと思うんですけれども、全国的にもこういう都市公園としてお金を取っている例というのはめずらしい、そういう公園ですけれども、そうやってお金をとっているのに、こういうふうに駅から本当に近いはずなのに、わざわざ遠回りをさせてしまっている、こういう状況でお客さんに来てくれなんて、とても言っても来てくれない、そういう状況になっていると思うので、せめてこの横断歩道を30メートル南下して、下のほうの矢印の位置にまでずらすことができないだろうか。横断歩道を塗りかえて、あと信号機を移し変えるという、その工事ぐらいは要りますけれども、ただそんなに大きなハコモノをつくるというわけでもございませんし、これは一度検討いただきたいと思っています。あとは、それ以外にはこの交差点をスクランブル化してはどうかという案もありまして、スクランブル化すると、駅から公園の入り口まで一直線でいけるというメリットは生まれます。けれども、渋滞の問題とかも発生する可能性もありますので、そのあたりはちょっと慎重にならざるを得ないところかなと思っています。

以上が一つ目の動線、駅からのアクセスということでお話をさせていただきました。次から二つ目の動線、寺町からの動線ということで、田淵委員からご説明させていただきます。その前にすみません、その提案のときにわかりやすいかと思って地図の写真をご用意いたしましたので、ちょっとすみませんがお配りいただけますでしょうか。

○田淵委員

どうも、田淵です。私のほうからはこの29ページの1枚だけについてお話させていただきます。まず茶臼山ゲートについては今現在、天王寺公園から一心寺のほうにわずかに出口だけはあるんですけども、そこから入ることはできません。またこのことについては、今までいろんな方が尽力されていたと思うんですが、私の提案はこの北側から入れるようにしたいということです。場所的には、谷町線に沿った、今現在、動物の絵が飾られているところですね、仮囲いのある位置、今お配りいただいた、写真がちょっと判明しづらいんですが、上の写真のところなんですが、道路沿いのところにつくるということが1点。

2点目は、そこに公園内外から利用できるカフェテリアというか、そういう飲食施設をつくと。当然、入り口ゲートをつくるということは、そこに入る入場料というか、そういう管理もする必要がありますので、その委託をそのテナントに依頼するという、人手のかからない方法を考えるということが3点目です。そうすることによって、谷町線沿いからとそれから茶臼山公園の有機的なつながりというか、新たなつながりができて町の景観もよくなっていくだろうということを考えております。

それから4点目は、夜間、あのかいわい、人通りが意外と少ないんですね。そこで防犯上のことも兼ねて、営業をある程度夜までやってくれるような運営の委託をして、人通りをふやすというか、人が集まってくるような、なおかつ明るく防犯上も貢献できるようなしつらえが必要かと考えております。

それから常設店舗というか、それもつくって、できるならば天王寺区のオリジナリティのある商品なりサービスなりを扱うようなお店、天王寺区をアピールするような店ができたらいいのになと思っております。常設以外にも、仮設店舗等もつくれるようなイベントも含めた場所をつくって、朝市ならぬ夕陽ヶ丘ですので夕陽ヶ丘市でも何でもいいんですけども、そういうスペースになったら、なおかつ理想的だなと思います。

先ほどから話がありましたように、戦国博等が催されることも伺っております。ちょうどこの北側の安居天神は、真田幸村が戦死した場所でもあるわけです。そういう寺町とか四天王寺、一心寺といった、この名称とのネットワークというか、それを逆にそちら側から天王寺公園に入れるルートを確保することによって、天王寺公園の北半分の、死んだところとは言いませんが、あまり人が訪れることがない箇所ですね、その部分がさらに有効利用できたらいいのになと思います。

私のほうからはハード面について言ったんですが、渋谷委員のほうから、あとソフト面についてお話していただきます。

○渋谷委員

戦略委員の渋谷です。よろしくお願いします。

先ほど田淵委員のほうからはハードの部分での天王寺公園の再開発ではないですけども、そういう面で提案していただいたんですが、私のほうからはこちらの天王寺公園のソフトの部分での提案なんですけれども、まず先ほどから申しましたとおり、天王寺公園といったこの大きい広大なスペース、これはよその公園にはない、ターミナルに直結した、隣接じゃないですね、もう直結した大きな緑があふれる公園ということで、ここの公園をもっともっここに人を集めるには、やはりおもしろいイベントではないですけども、人が集まるような、どんどん集客できるようないろんなイベントをもっと催していただければなと考えております。そのリサーチというかパイロット的な、試験的なイベントとしまして、オープンカフェのイベントを先月5月半ば、それと先週末の2回実施させていただきました。このオープンカフェイベントは、天王寺区内の老舗さんから、新規の飲食店舗の方々にご協力いただきまして、区内のおいしいどころ、天王寺区内にはこういった有名なお店がありますよという紹介と、あとは区内の天王寺公園にどういったお客さんというか、地域の方はどういった方が訪れるのかなというリサーチも兼ねて、今回2回行いました。

1回目の開催、5月18日に開催したんですけども、このときは隣の通天閣さん

に所属しておられる交響楽団さんのイベントが天王寺公園の中でございまして、そのイベントに合わせてオープンカフェという形で、地元のスイーツであったりとか、コーヒーを提供するというイベントを行いました。それと先日27日は、これも夕方からイベントで、「バロックのゆうべ」というコンサートがあったんですけれども、それに合わせて、ただこの日は美術館の休館日でして、あえてイベントのない時間帯と日にちにやってみたという感じであります。1回目に関しましては、やはり音が常に鳴っているという状況でありましたので、駅のほうからも結構ファミリーの方も含め、若い世代の方の流れも多少、割りとにぎわった感じでありまして、それに便乗して晴天にも恵まれましたので、品物、スイーツであったり飲み物も割りと思った以上に出てまして、盛況で終わることができました。それで、先日の27日のイベントでは、ちょっと場所も美術館前ということで、あえて駅からすごく遠い場所で、休館日ということで何もやっていない時間帯で狙ってやったんですけれども、やはり人がまず通らないということで、人の流れがなく、なかなか日差しの照り返しも厳しかったもので、用意したのものも、最後何とか全部提供できたんですけれども、ちょっと苦戦したという、こういう状況でありました。

この2回のオープンカフェのイベントを通じて、やはりソフト面での、何かもうちょっと人が集まるようなイベントごとをこの大きな公園で、もうちょっと頻度を上げてできればいいなというふうに私は感じております。次回、今度は冬場なんですけれども、12月開催と記してありますけれども、12月に天王寺区主催で天王寺蕪の収穫祭というのがあるんですけれども、今度はそこで、またオープンカフェのイベントを出店しようかと、今、企画中であります。ここのイベントでも、天王寺蕪という地元の名産品を活かして、地元の店舗の方々に天王寺蕪を使った何か、品を提供していただいて、区に訪れたお客様であったりとか、たまたま偶然訪れた方々にも、天王寺区内のこういったいろんな魅力のあるお店があるんだよというところを、アピールできる場がこの天王寺公園の中でできればいいなと思っております。

私のほうからは以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

ご案内どおり、今日8時までの予定ですがけれども、30分ほど時間がおくれておりまして、皆様のご意見を伺う時間があまりないかと思えます。ただいま3作業部会の報告は、水谷区長、足高、福島両議員のこれまで6回の戦略会議の中でのご意見も参考にしながらまとめてきたものですがけれども、まだ途中段階で、皆さんから意見が伺えればそれもまた反映しながら、その中身を詰めていこうというものでございます。特に、何かご意見とかあれば。

○南委員

戦略会議の方々、確かにすばらしいと思いますが、実際これ、区政会議の肩書がある以上、勝手に動くんだったら動いてもいいと思う。それだったらこの有識者会議、実際に前に話したんだけれども、僕1回だけ戦略会議に傍聴で参加させてもらったときに、確かにこの3つの作業部会をつくりました。そのときに、有識者会議との合同会議の際には戦略会議から、そう多く出席しなくても各作業部会から2人ずつ行って話をしたらいいのではないかということをおっしゃったと思います。前回区政会議をしたときに、全体の人数が多いから皆そういう話をされました。それから1回も会議はないですよ、区政会議。僕自身がね、こういう皆さんと話をすることが確か、戦略会議の方、そう思いませんか。それでずっと、戦略会議の方は月1回ではなくて、月に何回も話を、作業部会ごとにお話されていると思います。確かにすばらしいと思います。でも実際、頭にあるのは区政会議で、二つに分かれておって、戦略会議の方が動くんだったらどうぞという感じになる。今、一生懸命説明されておったのは、僕らは全然わからない。正直、戦略会議の方からの報告だけです。やりましたというのではなく、こういうことをやろうと思うんですけれどもどうですかと区政会議の場で話をして、ああそれはいいですねと言って話をするのかなと僕は思っていたんです

よ。戦略会議の方、どうかは知らないけれども、自分たちは勝手に動いていいのかなと思われたのか知らんけれども、僕らは要するに、あなた方が一生懸命考えたことを、教育・子育て・国際交流に関しては「TERAKOYA」、防犯・防災・地域社会災部会、いろんなものがありましたよね、高齢者見守りサポーター。そしてシティ・プロモーション、こういうことを考えていますという話をして、皆さんと区政会議で話をしてやるのかなと僕自身は思っていた。だけど戦略会議の方々が、一生懸命話をして、会議をしながら、区長に、区長にと行って、勝手に動いている、悪いけど。それでいいと思うのか、僕自身はそれだったら今おられる有識者会議の方々は、結果を聞くだけの話。それでいいのかなと、その結果を聞くんだったら意味がない。

○水谷区長

一通り、言われたと思うのでお答えさせていただきたいと思いますが、別にこれ確定的にこの提案がそのまま事業化するということではないです、まず。先ほど田中議長から申し上げたように、作業部会単位でまとめた提案について、今日、区政会議合同会議ということですので、また皆さんからご意見があればぜひ、ご助言も含めて言っていただきたいと思います、というような向け方を議長もされたと思います。まずそこはちょっとご確認いただきたいと思いますなと思います。

それが1点と、もう1点、区政戦略会議のほうは月1回でやってきたというのは、これは基本的に行政のほうでそれを膳立てしてやったというわけではなくて、かなり委員さん自身の任意で会議を開催してきたという経緯が多ございます。例えばこの作業部会単位の会議なんかですと、僕らは参加していないんですよ、区役所からは。もう完全に作業部会のメンバーの方々が、例えば喫茶店とかレストランとかに集まって、夕食をともにしながら会議をするということをされてきてですね。

○南委員

それは何も僕、言っていない。そういうのをされているのは知っています。

○水谷区長

ちょっと最後まで聞いていただきたいんですけども、戦略会議はそういう状況です。有識者会議の方々にも、これ有識者会議の方々にも職員が一对一で個別に回っていつも、区の情報とかご説明してはいますけれども、そのときに戦略会議は月1回会議をさせていただいてはいますけれども、有識者会議のほうはいかがですかと伺ったときに、会議開催を希望される方の数が、半数を下回っていたという経緯がありますね。それで、当面は月1回の会議という形で有識者会議は開催させていただいてなかった、これはもう事実です。しかしながら、その分を有識者会議の方といろいろと、さまざま地域振興会、社会福祉協議会などさまざまな団体で役職を兼任されている方も多ございますから、そういった団体の会合等でお話しさせていただく中で、やはり有識者会議も何らかの形で意見を言う機会が欲しいと、それはどういう機会かという、まず戦略会議の中でどういう議論がなされているかというのを確認する機会と、あとそれにとどまらない、区政に対してこういう合同会議では言い切れない意見を言う機会が欲しいということ承ったので、全員の有識者会議の委員の方が来られるかわからないですけども、今後、懇話会という形で、皆さんからご意見を伺って、また私たちのほうから戦略会議、また区政会議の現状についてご説明する機会を設けさせていただきますという話を、今日の冒頭の挨拶のほうでさせていただいたということです。

○南委員

そうではなしに、今、戦略会議、確かによく会議されたのはわかっています。ただ、今言われたように、この天王寺公園でやられましたオープンカフェ。確かにポスターを貼ってました。確かに戦略会議のときこんな話をされていた、僕は傍聴のとき聞いているからわかっているだけであって、知らない人は、これは区役所がやってるんだと。違う、戦略会議の方が一生懸命話をされていた。

○水谷区長

オープンカフェイベントというのは、そもそもこの将来ビジョンのほうでも記入さ

せていただいているんですけれども、2014年、15年に向けて、天王寺公園など区内の著名なスポットを使って、イベントを数多く打っていくという取り組みを今、させていただいております。その一環としてこの天王寺公園で、オープンカフェだけじゃなくて、例えば真田幸村の甲冑隊によるパフォーマンスとか、そういったイベントをいろいろと、5月を中心に打ってきたところなんですけれども、それに区政戦略会議の方々がボランティアとしてかかわってくださったというところがございます。ですから、今日「TERAKOYA」とかオープンカフェとか、例えば茶臼山のゲートの設置とか、いろいろな事業提案をいただきましたけれども、こういった予算措置が必要なものについては、まだ全然確定していない状況です。我々としてもこれをやりますということ、まだ完全にファイナルアンサーという形でお示ししていませんし、まだ来年の予算編成は始まっていない時期ですので、それを来年度実施するしないという判断もできていないということです。そこだけご理解おきください。その前段階で、今日また皆さんのところに、この各作業部会から、こういう議論をしてきましたという報告をさせていただいて、さまざまご意見を賜っている状況ですので、ちょっとそこは、どうか分けて認識いただきたいなと思います。これはお願いです。よろしく申し上げます。

○三浦委員

三浦と申します。よろしくお願いたします。

南委員がおっしゃっているのも含めて、すごいなって思ったんです。私自身もこの天王寺の公園、本当に隔離されたような感じがあって、南委員の話は話として置きまして、私自身、お話を聞かせていただいて、とてもハードとソフトという部分での話なんですけれども、谷町筋のところを通る、私もしょっちゅう通っているんですけれども、本当に一体化されていない。田淵委員がおっしゃったお話、すごい魅力的だなと、渋谷委員がお話されたあのカフェとしても、本当にすごいことだなと。継続していただいて、私、他区といろんなかかわりを持つときがあるんですけれども、「天王

寺って」という感じの表現をされます。公園イコールたまり場、びっくりドンキーの前のところって、あれって何なんやろうって、本当にこの何十年ずっと思ってきましたので、いっぺんにハードの部分ではできないということはわかっているんですけども、本当に、やはりあの天王寺のJRの駅から出てきて、すぐに公園ってどこにあるのって、そういう感じがしますので、本当に早急に、ハードの部分で変えてほしいなって思いました。本当に魅力のある話だなんて思いますし、本当にいい話です。それで南委員の話の補足ということも、厚かましいんですけども、とても先行されている部分が私たち聞いていて、すばらしいなと思う反面、やはりきちっと報告というんでしょうか、そういう部分で耳に入っていたらな、これからされることのほうが多いんですけども、とても聞かせていただいている、南委員のおっしゃる気持ちもわかりますし、本当に皆さんの、戦略会議の方たちの思い、またこれから進められるであろう、天王寺区としての本当に魅力ある、外部の人がおいでになって「天王寺区さすがやね」って、どこを見てもすばらしいって言われる天王寺区にさせていただけたらなと思いました。

○田中議長

ありがとうございました。

もう定刻が近づいておりますけれども、今回全体の会議も含めて、水谷区長から一言いただいて、その後は足高、福島議員からもご意見をいただきたいと思っております。

○水谷区長

すみません、いつも私ばかりがどうしても会議になるとしゃべってしまって、本当に申しわけないですけれども、ちょっと今日の全体の会議の総括ということで、お話しさせていただきたいと思っております。

まず先ほど、三浦委員が言われたことって本当にそのとおりだと思っております。確かに戦略会議で皆さんいろいろ、いろんな分野について意思加減を持っておられる方々なので、議論が先行する部分も私も含めあったかと思うんですけども、そうは

言っても皆さん本当に、普通の区民という言い方が適切かどうかわからないですけれども、いろんな仕事をされていたりする普通の区民の方々に、なかなかその議論がいろんな方向にいったりとかしていて、ようやくまとまって今回、中間報告として上げさせていただくことができたということなので、ちょっとその中間報告という形でまとまる前の段階では、なかなか情報提供をいろんなところにする、逆にそこでまた意見をもらって、その内部での議論が萎縮してしまうというところもあったのも事実かと思うんです。ですから、なるべく迅速な情報提供というのはやはり大切だと思いますので、今後、有識者会議懇話会みたいなものを設置させていただきますけれども、そういう手段をとりながら、なるべく多くの方々に議論状況が共有できるようにさせていただきたいと思っております。

その会議の内容面のことなんですけれども、本当に今日は具体的なさまざまなお意見をいただきまして、まずやはり中野議長も言われていたように、高齢者見守りサポーターについては、本当にボランティアの人選を含めて、これは慎重にやらせていただくと、これは確実に明言させていただきたいと思っております。研修も含めて、ちゃんと責任を持って送り出せる人をやはり地域に送り出していくということを徹底させていただきたいと思っております。またこの点については、戦略会議の越村委員も本当に、この配られた見開きのA3の資料が本当に細かくできていて、やはりこの資料を運用するに当たっては、ここで示されているチェック項目を随時確認しながら、やはり運用していかないといけないなと思うほどだったんですが、ちょっとポイントが多いので全ての点には言及できないんですけれども、SV（スーパーバイザー）の体制とか、ボランティアリーダーの人数とか、報酬額とかについては、これはこの事業を立案して今、運用している保健福祉課の職員は職員で多分言い分がいろいろありますから、またこういう意見も参考に、来年度以降のその運用のあり方というものを考えてまいりたいと思っております。庁内の議論にも活かしてまいりたいというふうに思っております。

いろいろ、ご提言いただいておりますけれども、やはり地域での見守りについて、今

日、社会福祉協議会のほうでもフォーラムがくしくもあったわけですがけれども、やはり行政のほうで見守るこの見守り事業についての振り返り会であるといいますか、そういうフォーラムもやはり設けていかないといけないかなと思います。やはりその見守りという分野において、これは多くの自治体が、それは地域に委ねればいいんだと、地域を応援していればいいんだという方向性で、いろいろ事業をやっている感もあるわけですがけれども、それだけじゃないだろうと。やはり地域でやっていただく部分と、逆に言えば行政でしかできない部分というものがあると。じゃあどういふ連携、役割分担ができるかというところを、本当に未知の領域ですのでいろいろと多難な部分もあるかもしれませんが、踏み出そうということではじまったのが、今年度の事業です、それを都市部で行うのは画期的とご評価いただいたのは本当にありがたいことなんですけれども、画期的である一方でやはり難しい点も多々あるということですので、本当に各地域のやはり民生委員さんなど中心に、やはりいろいろと、この事業について良い点も悪い点もチェックしていただくような機会というものは今後、担保していかないといけないなというふうに思っております。

それから、飛田委員がおっしゃっていたような放置自転車の対策がちょっと極端過ぎる部分があるんじゃないかと。店の軒先にちょっと置いていただけても1時間以内になくなってしまうと。そういったことについては、本当に、高齢者とか障がいを持っておられる方とか、そういった方々は対象外という形で除外できないかということ、局とも議論の上、今後検討してまいりたいなというふうに思っております。

それから、3作業部会からいただいた報告については、本当にいろいろとできるどころ、できないところ、それからもっと議論を深めるところとあろうかと思うんですが、まずこの第一の「TERAKOYA」というところについては、子どもたちが本当に将来を切り開く力を育みたいと、それを区として応援するというのをやはり、去年の就任当初から言わせていただいているんですけれども、いわば教育サービスの選択制といいましょうか、今回、中高生向けのインターシップをやらせていただきま

したし、企業でもインターシップだけじゃなくて、例えば僕は数学の力を伸ばしたい、僕は化学の力を伸ばしたいとさまざまなんです、興味関心をもったお子さんがいようかと思います。そういった、興味関心を持ったお子さんが活躍できるような場所を、この「TERAKOYA」のようなものも含めて、区のほうでも今後、事業として確保してまいりたいなというふうに思っております。

それからこのシティ・プロモーションについては、天王寺公園エリアについては本当にこの区政戦略会議だけでなく今、三浦委員もおっしゃったように、本当に実に多くの区民の方々が、思い入れを持っているところを痛感するところです。今、天王寺駅北口の商店街の方々とかを中心に、副区長主導でちょっといろいろとヒアリングをさせていただいているんですけども、やはり天王寺公園、それから敷地内にある美術館とか動物園とか、それから天王寺公園周辺のエリアも含めて、もっとやはりにぎわいのある、そして本当に安心して親子連れが楽しめるような町にしてほしいというニーズは強く受け取るところです。今、その天王寺公園のあり方については、専門家を中心としたプロジェクトチームのほうも局のほうで立って、そうした会議等に出席する折々に、私も地元側からこういうご意見が出ていますということをお伝えしている状況なんですけれども、今後もそのスタンスを継続する中で、この天王寺公園がより区民にとっても、区外の人にとっても、快適に利用しやすい場所になるように、戦いを続けてまいりたいなというふうに思っています。

すみません、ちょっと駆け足で今日の会議を振り返りましたけれども、本当に皆さんからいただいたご意見、これは有識者会議、戦略会議の垣根を越えて、全てがひとしく重要だというふうに思っております。今後も、こういう形で議論を続けさせていただきたいと思いますので、何とぞよろしくお願いします。

今日もどうもありがとうございました。

○田中議長

そうしましたら、足高議員どうぞ。

○足高議員

今日は本当に皆さん方、戦略会議、また有識者会議の皆さん、本当にご苦労さまでございます。何点かちょっと気のついたところだけ、お話をさせていただきたいと。田中議長さんが非常に頑張られて、3作業部会をまとめられてやられたんですけども、先ほどちょっと田淵委員がおっしゃったんですけども、谷町筋からオープンカフェを使って公園をやると、そのときに確か私は、皆さんと少し議論をさせていただいて、公園は必ず無料ということ的前提にするほうがいいんじゃないかなというように、多分皆さん方、そういったご理解をされて、また逆に、そういう提案がそこからあったかのように思うんです。ただそのときも、単に無料じゃなしに、やはりいろんな問題が起こらないような工夫で、オープンにしてくださいということをちょっとお話されていて、先ほどちょっと何か有料化的な発想が少しあったので、私はそんなことを言った覚えはなかったので、その辺はどこで、そういう形にまた変わったのかどうか、その辺をちょっと教えていただきたいなというのと、それから区役所の皆さんなんですけれども、先ほど生駒委員が、アンケートのところでこれは中身は何ですか、ということをおっしゃいました。これは前回の区政会議のときにも、区役所にとって都合の良いアンケートはやめてくださいねということを確認言って、そのあとちゃんとやりますということをお返事いただきました。多分、同じ担当課長と思うんですけども、それが一向に十分できていないということ、再度よく理解していただいて、どういうアンケートで市民の声を正しく反映するかということも、ちょっと悩んでいただきたいなというように思います。

それと、あともう1点ちょっと気がついたのは、「TERAKOYA」のところで運営実行委員会、これ、NPOとか区役所とか、国際交流センター等を想定されておるんですけども、だんだん、大阪市というのは国際交流センターさえ、もう次からは行政が直接やるのではなしに、できるだけ指定管理をしようという流れが実は出てきているんです。それで特に、金もうけするためのマネジメント中心にした運営にし

たいというふうに考えておられますので、ちょっとそれでここに、これは「等」ですから、どっちははっきりしませんけれども、そういう流れがあるということも考えていただいて、実行委員会というのを、こういう運営を考えていただかないと、少し皆さんが知らない情報が、まだたくさんあるんです。だから区役所のほうも、そういう流れは皆さん方に、ちゃんとお話をするべきではないかということ、ちょっと気がつきましたので、それだけをちょっとお話をさせていただきます。

今日は本当に皆さん方、先ほどもちょっと南委員がおっしゃったように、やはり決まったことはやる前に例えば、有識者会議、こんなやりますよという投げかけが少しあったほうがよかったかなという感じも思いましたので、それだけをちょっとご報告させていただきます。

○福島議員

どうも皆さん、お疲れさまでした。非常にいろんな議論が、もう中身の話はいろいろあったので、きょうはもう、評価の話というのはなかったと思うんですけども、参考資料2という、この議論はなかったですね。この中で区役所のほうの話なんですけれども、今日の資料で、いろんなこの達成状況というのを書いてある資料があります。その中で成果というところが、ABCでランク分けされてあって、Aの場合は極めて順調に進捗していると、それでBは、順調に推移していると。Cは達成に向け、必ずしも順調とはいえない、というような部分があります。ほかにも、取組の達成で目標を上回る達成、おおむね達成、達成できなかったとあるんですけども、なかなか極めてというのが、どれぐらいをもって極めて順調としているのか、おおむねというのもこれが50%なのか、70%なのか、どれをもっておおむねというのは非常に、そういう部分は尺度が主観、もちろんこれ自己評価なので、主観的な部分が入るんじゃないのかなというところがちょっと、議会的な意見なんですけれども、それは一つ言わせていただきたいと思います。確かに、今、足高先生からもあって、生駒委員からもあった話なんですけれども、もう一つのこの区のほうもアンケートの

ほうも、まさにどれぐらいの人を母体としてとったのかなと、先ほどの問題以外にも、ほかので全部、何%というのが、どういう方法でどれぐらいの人に聞いてされたかということが、ちょっと探していて見当たらなかったんですけども、そしてまたその方法が何をもって、区民の民度をはかるのに良いのかというような部分も、同じような感想を持ちました。これは行政に対しての、議員としての意見になると思うんですけども。この戦略会議と有識者会議を合わせて区政会議という意味では、こうした形で区政を運営、区政の運営にまでかかわっているとっていいかどうかわかりませんが、議論をするということがあるというのは、区政という意味では非常に大きな進歩だと思います。区長おっしゃったように懇話会というのもしていくということだったので、もっと議論を深めていただいて、最終的には多くの意見が出たら多分、さまざま意見が出てまとまりにくい、結果的に何もまとまりませんでしたじゃなくて、最終的には何らかの方法をもって、決めていただくと、議論をするべきことはして、その上で決めていただいて前進していただけたらありがたいなど。そしてまたこの、両方の会議を合わせた区政会議の中から、天王寺区の新しい何かが一つでも実現できたらいいなというふうに思いました。

○田中議長

ありがとうございました。

ちょっと先ほどの足高議員のシティ・プロモーション作業部会への質問については、無料化してほしいけれども、その無料化の前に、常設のオープンカフェをすれば、有料化の中でも、先ほど言ったように、コストを下げながらやっていけるということでございますので、ご理解いただければと思います。

これで、議題については終了させていただきたいと思います。

区役所のほうに、進行をお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

○樋上PDCA担当課長

中野議長、田中議長、ありがとうございました。

また委員の皆様、多くのご意見をいただき、まことにありがとうございました。

最後に、区長から。

○水谷区長

もうお疲れだと思うので。

○樋上P D C A担当課長

そうしたらすみません、それでは以上をもちまして、平成25年度第1回天王寺区政会議を終了させていただきます。

忘れ物のないよう、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

—了—